

令和6年度第2回さいたま市社会教育委員会議 次第
(第12期第4回会議)

日時：令和6年9月3日（火）
14時00分から
会場：ときわ会館 小ホール

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 報告事項

- ・ 前回会議について

(2) 協議事項

- ・ 第12期さいたま市社会教育委員会議ワークショップについて

4 連 絡

5 閉 会

令和6年度第2回(第 12 期第4回)さいたま市社会教育委員会議 出席者名簿

No.	氏 名	選出母体等	備 考
1	石川 敬史	十文字学園女子大学教授	副議長
2	石崎 敬吾	さいたま市中学校長会	欠席
3	井上 久雄	青少年育成さいたま市民会議副会長	欠席
4	今川 夏如	さいたま市PTA協議会前副会長	
5	加藤 美幸	十文字学園女子大学学修支援員	
6	小林 玲子	公民館運営審議会委員	欠席
7	佐野 操	埼玉県家庭教育アドバイザー	
8	澁谷 知範	公募委員	
9	関根 広美	特定非営利活動法人さいたまNPOセンター 専任委員	
10	鶴ヶ谷 柊子	浦和大学講師	欠席
11	林 弘樹	映画監督	欠席
12	藤田 成司	さいたま市立小学校校長会	
13	吉川 洋一	(公財)さいたま市スポーツ協会副会長	欠席
14	吉沢 浩之	さいたま商工会議所常務理事	欠席
15	若原 幸範	聖学院大学准教授	議 長

(50 音順)

(事務局)

1	佐野 公子	教育委員会事務局生涯学習部長
2	辰市 健太郎	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課参事兼課長
3	玉城 伸	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課副参事
4	石田 悦子	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課長補佐兼企画振興係長
5	三村 悟	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主査
6	伊藤 智美	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主査
7	駒井 友里香	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主事
8	中島 孝一	教育委員会中央図書館資料サービス課参事兼課長

令和6年度第1回（第12期第3回）さいたま市社会教育委員会 会議録

開催日時：令和6年7月1日（月）10時00分～11時30分

開催場所：市役所2階 特別会議室

出席者名：【委員】若原 幸範議長、石川 敬史副議長、石崎 敬吾委員、
加藤 美幸委員、佐野 操委員、澁谷 知範委員、
関根 広美委員、林 弘樹委員、藤田 成司委員、
吉沢 浩之委員

【事務局】（生涯学習部） 佐野 公子

（生学習振興課）辰市 健太朗、石田 悦子、八島 典子、
三村 悟、富澤 麻理絵、伊藤 智美、
片山 貴仁、駒井 友里香

（生涯学習総合センター）井出 浩史

（資料サービス課）中島 孝一

欠席者名：井上 久雄委員、今川 夏如委員、小林 玲子委員、
鶴ヶ谷 柊子委員、吉川 洋一委員

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：なし

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 前回会議について

令和5年度第3回会議の概要について、会議録に基づき説明した。

(2) 協議事項

ア 令和6年度 社会教育関係団体補助金について

令和6年度の社会教育関係団体への補助金について、資料1に基づき説明し、意見を聴取した。

【質疑応答・意見】

<吉沢委員>

予算書の収入のところに前年度繰り越しがないが、負担金等自己資金よりということから補完されているのか。前年度繰り越しがあると思うが、どのくらいあるのか。

<家庭地域連携係>

自己資金負担金等には繰り越しがあり、含まれている。

<加藤委員>

予算書を見ると、市の補助金が165万円で、他で354万円の収入があることはわかるが、165万円の額がさいたま市のPTA協議会にとって必要な額であるのかわからない。余ったお金が多くあれば165万円ではなく、必要額の100万円などにすべきだと思うが、資料1では見えてこない。例年同じ額を同じように支給しているが、経費削減の動きからどのように考えているのか。

<家庭地域連携係>

165万円はあくまでも上限で、PTA協議会への補助金で実際に繰り越しはないが、繰り越しの額が随分大きい場合には165万の予算の範囲内で減額することもある。

保険事務手数料収入の多大な額が繰り越しされていないこと、特別事業のために積み立てをしているということもあったため、この額を支出しているが、今後そのような視点からも、検討していきたい。

イ 第12期さいたま市社会教育委員会議ワークショップについて

(ア) 事業説明・事前質問への回答

第12期第2回会議において希望が多かったチャレンジスクールをとりあげ、資料3に基づき、家庭地域連携係より概要の説明と、社会教育委員から事前に募った質問事項への回答を行った。

【事前質問回答】

① 大学や企業との連携をしているか。

<家庭地域連携係>

浦和大学や芝浦工業大学からはボランティアの紹介も受けている。特に浦和大学においては、チャレンジスクールの参加により単位が認定される、授業の一つとして位置づけられている。

企業等からはチャレンジスクールで行うプログラムの提供を受けており、プログラムを実施する際は、従業員の方を無償で派遣していただいている。また、チャレンジスクールの職員を対象にした説明会等に従業員の方を派遣していただくこともある。

② 活動を無理なく継続・持続していくための工夫はしているか。

活動の回数や内容はそれぞれの運営委員会で決定しており、年に何回実施すること、

といったルールはないため、それぞれの学校の実情に合わせて、無理のない範囲で行っていただいていると考えている。また、チャレンジスクールを視察した際にも、保護者の方で1時間だけボランティアとして活動をしているという方もいた。

【質疑応答・意見】

<加藤委員>

チャレンジスクールが国の地域学校協働活動の事業の1つであるということで、国からの補助金はどの部分に使われているのかということ、学校地域連携コーディネーターは地域学校協働活動推進員と同じなのかということ、企業のプログラムを提供してもらう取組の内容と、携わり方についてお伺いしたい。

<家庭地域連携係>

まず、補助金については、さいたま市教育委員会が支援事務局に委託をしているが、委託している事業者の運営にかかる費用は別として、チャレンジスクールの運営にかかる費用の3分の1を国庫補助で受けている。

次に、学校地域連携コーディネーターと地域学校協働活動推進員の関係について、社会教育法では地域学校協働活動推進員は識見を有する者に委嘱するとなっているが、さいたま市の場合は学校地域連携コーディネーターを職員として配置している。役割、位置づけについては同じであると考えている。

最後に、企業プログラムについて、企業プログラムは働く世代に参画してもらいたいということ、チャレンジスクールの内容を充実させたいということで取組を始めたが、まだ始めたばかりで実際の利用件数は多くはない。

<加藤委員>

実施したものはどのようなものがあるのか。

<家庭地域連携係>

今提供を受けているもので、リコージャパン株式会社様からの「SDGs」についてのプログラムと森永乳業株式会社様からの「牛乳の秘密」というプログラムを紹介している。また、今年度から、明治安田生命保険相互会社様からの子ども向けの保険・貯金についてのプログラムをこれから紹介する予定である。その他にコープみらい様から環境などに関する各種プログラムを提供している。

<林委員>

土曜チャレンジスクールは自主学習、放課後チャレンジスクールはレクリエーションやスポーツなど多種多様なものに取り組んでいるように読み取れる。小学校のチャ

レンジスクールを見たり、講師としても参加したりしているが、土曜と放課後で全く同じ内容をやっている。現在は子どもたちの多忙化もあり、申し込みの 3 分の 2 が放課後、3 分の 1 が土曜であるということも聞いており、学校によって様々なケースが考えられると思うが、放課後と土曜の内容を明確に分けている理由についてお聞きしたい。

<家庭地域連携係>

放課後チャレンジスクールの前身が文部科学省からの働きかけがあった地域子ども教室で、土曜チャレンジスクールは当初、さいたま市では土曜寺子屋ということで、子どもたち向けの学習を実施するという趣旨で、事業を開始した。これを平成 24 年度からどちらもチャレンジスクールという名称で統一して全校で実施することになった。当初の経緯もあり、基本的に土曜チャレンジスクールでは学習を行うと記載しているが、参加者のニーズやボランティアスタッフの話し合いで、土曜日でも体験活動を実施しているケースが増えている。

<林委員>

コーディネーターの方にお話を伺った際に、子どもも大人も主体的に事業に関わって交流し繋がりができるというよりは大人は子どものサポートに徹しているように感じ、現状では生涯学習という面で大人も事業を通じて学びの場に繋がるという意味合いが薄れてしまうことが課題であると話をした。

そこで、ボランティアとして参加する大人たちの動機づけやモチベーションとなる子どもも大人も対等に学んだり協力し合ったりできるプログラムを取り入れないかと思った。

<佐野委員>

謝金についてお伺いしたい。

<家庭地域連携係>

チャレンジスクールで活動していただいているボランティアは有償の方と無償の方がいる。有償の方の場合、1 回につき学習アドバイザーは 2000 円、安全管理員は 1200 円の謝金を支払っている。無償の方については、例えば保護者の方で 1 回だけ参加するという方々が無償のボランティアとして活動していると聞いている。

(イ) グループワーク

<A グループ（発表者：林委員）>

チャレンジスクールの持っているきっかけは学校でやっているということで、親やその繋がりの人が参加しやすく、有効であると思う。ただ、働く世代や子どものいない

大人などがボランティアとしてどう携わるかが課題であるという意見があった。学校を中心とし、地域と協働しているとなるときかけを仕組み化できるのではないかと考えた。高校や大学、企業へ参画の要請をしたり、学校の先生に自分の住んでいる地域で活動していただいたりなど、立場や役割を超えて生涯学習や地域活動の繋がりができるのではないかという話が出た。

また、生涯学習のプログラムは公民館や市民大学が行うプログラムがあるが、これらは参加するのには敷居が高いと感じてしまう。一方でチャレンジスクールは小さいエリアの枠組みの中で気軽に学びの体験の場を作ることができ、身近に感じられるということがあげられた。

<B グループ（藤田委員）>

チャレンジスクールは「児童」がキーワードになっており、親子で参加できるプログラムが良いと思った。子どもがいる方や地域の方は多く関わっているが、子どもがいない方や地域にいない方に関わっていただくためには企業プログラムや公民館の取り組みを生かしていくことも大切だという意見があった。

これから事業を続けるためにはやりがいを感じられ、無理なくできる取り組みを考える必要があると感じた。また、学校と地域を繋げるということでコーディネーターの役割やコーディネーター同士の繋がりを大切にしていこう必要があると思う。

ボランティアとして参加していただいている方に謝金を支払うことも重要あるのではないかという意見も出た。

全体的なまとめとして、さらなる世代を超えた学びのスパイラルを考えていきたいと思った。

(ウ) 本日のまとめ

<石川副議長>

今回のお話と議論を通して2点ほどまとめた。

1つがボーダレスということで、世代や組織、所属、さらには学校の校区をどのように超えてボランティアの担い手同士の繋がりをどう形成していくのか、チャレンジスクールのお話をいろいろお聞きする中で感じた。

もう1つがスパイラル形成ということで、サービスを受ける、提供するというような関係性ではなく、いかにスパイラルを形成していくのか。そして学びのスパイラルだけでなく、主体性を育むスパイラルや参画と協働というような人々を巻き込んでいくというスパイラル、人と人とを繋げていくスパイラルがあると感じた。

<若原議長>

まずは繋がりをどのように作っていくかが鍵であると感じた。学校を場としている

ことが重要な要素で地域の方や保護者、児童生徒など多様な方が繋がりやすい学校という場をチャレンジスクールは生かしていると思う。ボランティアの活動で多様な関わり方ができる機会を作っていて、企業との関わりもできていることは良いことであると感じた。

一方で、高齢化などによりボランティアが不足していることが課題となっている。学校という場は多くの方が繋がることのできる場だが、子どものいない方だとその繋がりを作りにくい。しかし、そのような大人もかつては学校で育った経験はあるのでその経験を入り口としてチャレンジスクールに参画する可能性があると思う。

また、働く世代の方々が自分たちの取り組みを生涯学習としてどのように理解し、認識するのかなど、学習者としての在り方を考える機会を設けることも必要と感じ、今後の課題として考えていければと思う。

4 連 絡

令和6年度の生涯学習ガイドブックの発行、生涯学習フェスティバルに関する情報を共有した。

5 閉 会

社会教育委員会議ワークショップ（第3回）について

1. ワークショップの流れ（約 75 分）

- (1) 説明 (5 分)
- (2) 事業説明・質疑応答 (20 分)
- (3) グループワーク (30 分)
- (4) グループ発表 (10 分)
- (5) 本日のまとめ (10 分)

2. 協議課題

- (1) 働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくり
- (2) 働く世代が地域活動につながる仕組みづくり

3. ご発表団体

- 認定NPO法人みんなの夢の音楽隊
代表 今川 夏如 様（第12期社会教育委員）、理事 井上 綾 様

4. ワークショップの進行方法

(1) 事業説明・質疑応答（約 20 分）

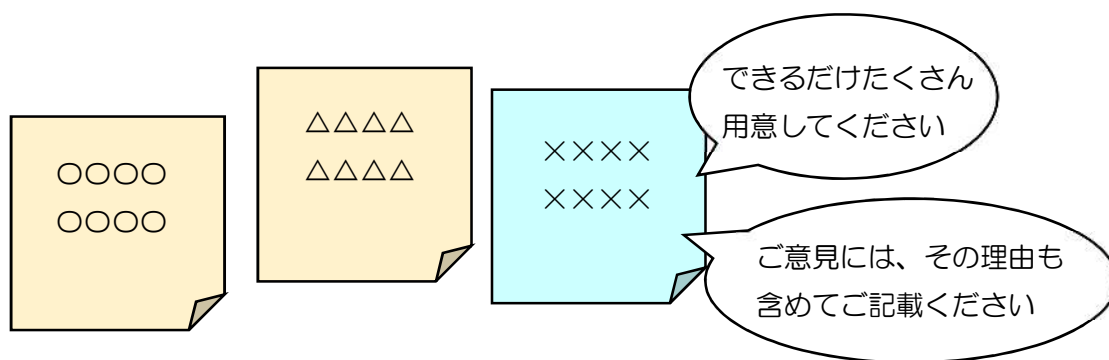
今回のヒアリング対象であるNPO法人の活動について、認定NPO法人みんなの夢の音楽隊様より事業の概要をご説明いただき、その後質疑応答を行います。

(2) グループワーク（約 30 分）

グループ	構 成
A	若原議長、佐野委員、澁谷委員、藤田委員 (オブザーバー) 今川委員 / 三村主査、駒井主事
B	石川副議長、加藤委員、関根委員、吉川委員 (オブザーバー) 井上様 / 石田補佐

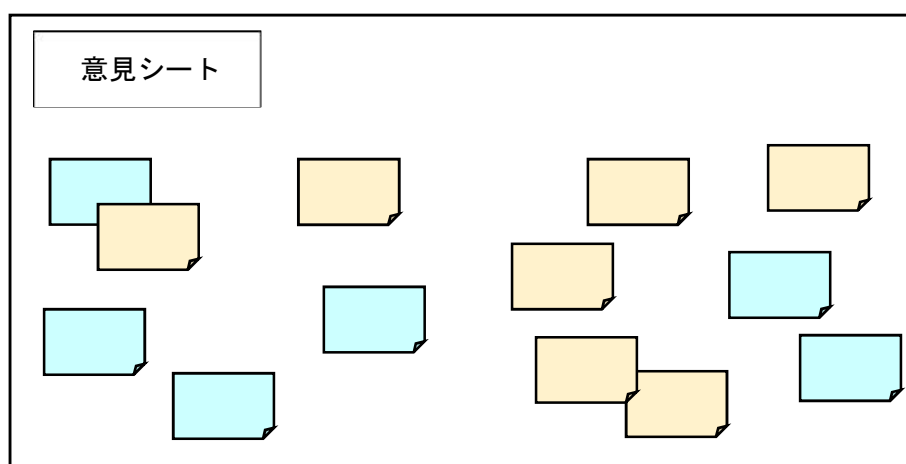
① 意見交換のための準備（約 5 分）

- まずは委員各自で、団体様からの説明や皆様の日頃の活動を通じて、働く世代の生涯学習の振興に関わる新しい取組や、現在行われている生涯学習の取組に参考にできることなどをフセンに書いてください。
- ご意見は1枚のフセンに1つずつ、なるべく簡潔に書き出してください。
- 説明を受けてのご意見は黄色のフセン、アイデアは水色のフセンに記入してください。
- 今回のヒアリング対象事業自体の改善案等をお書きいただくものではありません。



② 意見交換（約 20 分）

- 各グループ内で 1 人ずつフセンに書いた意見をまとめシートに貼り付け、グループ内で順番に発表してください。（1 人あたり 2 分程度）
- 近いイメージの意見のフセンは近い位置に貼り付けるようにしてください。
- 発表が一巡したら、グループ内で意見交換を行ってください。



③ グループ内まとめ（約 5 分）

- 各グループで発表担当を決め、グループ発表の内容をまとめてください。
- 発表担当は議長、副議長以外の社会教育委員の中からお選びください。

(3) グループ発表（各 5 分程度/計 10 分）

まとめシートの内容を基に、グループごとに発表担当から発表していただきます。

(4) 本日のまとめ（約 10 分）

各グループの発表について、議長と副議長より総括を行います。

ワークショップとは、参加者の主体性を重視した形式のことで、様々な立場や考えの人がお互いの意見を理解し合い、協力して新しい発見、共通の方向性を見出す手法です。
意見を戦わせる議論や、疑問点・不明点を明らかにする質疑応答が目的ではありません。



事業名：夢桜さいたま祭り・まちフェス桜 事業概要シート

作成：井上綾・今川夏如

1 事業概要

- ・夢桜さいたま祭り 2022 年度、2023 年度に開催

児童生徒が主体的に新しい祭りづくりに取り組み、令和の時代に新しい祭りを創出する。地域の小中学校で募集された子どもスタッフ約 30 名が、公民館等を会場として 5～6 回の準備検討を行い、プラザウエスト 2 F 多目的ルーム・3 F・4 F を借り切って（2 F ホール以外）、小中学生専用エリアに約 400 名、誰でもかんげいエリア約 600 名、あわせて 1000 名が来場した。当日の大人スタッフは約 60 名で、子どもたちの活動の見守りや、一緒に取り組む活動に参加した。

- ・春休み！子ども応援！まちフェス桜！ 2022 年度、2023 年度に開催

春休みの期間中、2022 年度は 13 日間、2023 年度は 12 日間、地域の小中学生を対象とした、様々な体験活動や、職業体験の機会を提供する。約 50 の企業や店舗が協力し、お店や工場などで子どもたちの体験企画を受け入れ、2022 年度はのべ約 400 名、2023 年度はのべ約 530 名が参加した。子どもたちに体験の機会を提供するとともに、働き方、生き方を知り、地域振興にもつながる機会をとらえている。

- ・共通項目

上記 2 事業の他に、地域の福祉作業所のお祭りを含め、3 事業を春の子どもまつりとしている。

2 主な活動内容

- ・夢桜さいたま祭り

大人スタッフは、会場を確保し、内容を決めないでおく。できるだけ多くの可能性を提案できる準備だけしておく。ほぼ妄想。子どもスタッフを募集して、どんなお祭りをしたいか、どんなお祭りができるかを一緒に考える。食べ物の試作品や、遊び道具の工作をするなどし、実現するための方法を時間をかけて考える。大人が用意するコーナーもそれぞれ個人や団体が準備する。

- ・春休み！子ども応援！まちフェス桜！

企画書を作成し、各企業・店舗に足を運び、参加・協力を要請し、体験企画と応援企画を募っていく。それらを紙のマップと、WEB ページに掲載し、地域の小中学校 15 校に配布する。参加者の情報を共有し、春休み期間、毎日、町じゅうあちこちで様々な体験の機会を用意する。

- ・共通項目

補助金申請や、区民祭りでの出店収益、個人・団体・企業等からの協賛金を募り、開催のための資金を集める。また、事業終了後には報告集を作成し、配布する。

3 働く世代の生涯学習の振興に係わる活動

本事業に主体的に関わる働く世代の人々は、普段の生活や仕事の中で培われた専門性を活かし、自身が得意とする分野で活躍している。建設業に携わる者は、搬入搬出や、大型の工作物の作成を行い、IT や AI などの分野に携わる者は、会員管理システムや、体験の申込システムを開発し、運用している。飲食店経営者、農家、工場などは、日常の仕事を子どもたちに体験させ、その技術の高さ、仕事を通じた社会との関りを世代を超えて伝えている。福祉作業所のお祭りと連携することで、地域の理解、障がいについての理解を深め、交流の機会を創出している。地域の PTA との連携により、子育て世代の保護者の地域への関わりを増やし、家庭と職場以外の場所にも活躍の機会を提供していくことで、地域振興や、生涯学習の振興に貢献している。

事業名：夢桜さいたま祭り・まちフェス桜 事業調査票

作成：井上綾・今川夏如

1 「働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくり」について

～働く世代の学習機会の創出や、事業への取り込みに役立っている活動～

- ・ 本事業を通じて、子育て中の保護者や、働く世代の人々が、自らの生活や仕事の中で、地域子どもたちと関わり、地域社会とのつながりを感じられることは、とても有意義なことだと思う。
- ・ 報告集や、未来会議の開催によって、活動の内容や成果を外へ発信することができ、新規の参加者や、協力者を創出することができ、同世代の人々へ、地域社会への関心や積極的な参画を促していきたいと思う。

2 「働く世代が地域活動につながる仕組みづくり」について

～働く世代の地域貢献や、多世代の交流促進などに役立っている活動～

- ・ 本事業に関わる多数の人々が、報告集や、未来会議を通じて、互いに連携して活動をしていることを知ることで、地域の仲間意識や、地域社会への理解を促進することが出来ると思う。
- ・ 積極的に関わっている子どもたちから、大人ばかりが集まって楽しそうにしているのはズルい。という声があがり、驚いた。次回からは子どもたちも大人たちと同じように交流できる機会を作っていきたいと思う。多世代の交流はもちろん、子どもたちの声や意見を尊重することで、より若い世代の社会参画を促していきたいと思う。

3 課題点について

- ・ それぞれが違う生活スタイルの中で、集まったり、オンラインミーティングをしようとしても、都合をつけることが難しい。飲食店は、土日や夜の営業があり、会社員などとはタイミングが合わない。
- ・ 春休み期間は、年度をまたぐ事業となるため、補助金などが適用されないため、資金的に課題が大きい。柔軟な対応があるとありがたい。
- ・ 会場の確保が抽選になるため難しく、市の共催等ができるとうありがたいが、どのように相談すればよいかわからない。
- ・ 人材の育成に課題がある。また、ひとつひとつの事業の目的や、見込まれる成果について、広い視点でとらえ、明文化したり、研究したりする分野とつながれていない。

事業名 夢桜さいたま祭り・まちフェス桜

1 事業概要シートについて

(1) 事業概要

- ・ これら事業を遂行するためのお金・費用について、どのように管理・検討していますでしょうか。
- ・ 主催者である、「認定 NPO 法人みんなの夢の音楽隊」の組織・事業概要について教えてください。

【夢桜さいたま祭り】

- ・ 大人スタッフの募集方法、年代層別およその人数を教えてください。
- ・ 企画された当初の経緯について教えてください。
- ・ 子どもスタッフの参加動機はどのようなものがありましたか。

【まちフェス桜】

- ・ 企業や店舗の募集方法を教えてください。
- ・ 企業や店舗はどのような意図で参加されていますか。
- ・ 体験企画は、誰がどのように企画しているのか教えてください。

(2) 主な活動内容

- ・ これだけの参加者、協力関係団体・企業、ボランティア受入数、事業数などがありますが、運営のマネジメントや情報の共有化など、どのようにして進めていますか。
- ・ 「働く世代の学び」「学びあい」という視点で考えますと、スケジュールやタスク管理、特定の方への負担、仕事の不公平感など、関わる人が多くなればなるほど、マネジメントの要素を強くしなければならない傾向にあると思います。組織をうまく、そして人を引き付けていく、動かしている工夫などありましたら、教えてください。
- ・ 個別に「各企業・店舗に足を運び、参加・協力を要請」するにあたり、商店会等の協力を得ることはありますか。

【夢桜さいたま祭り】

- ・ 大人が用意するコーナーの事前準備や実施内容について教えてください。
- ・ ファシリテートする支援者（大人）の役割が重要と思いますが、どのようなことに意識されるでしょうか。
- ・ 「地域の小中学校 15 校に配布」するなど、小中学校との連携にあたり、考慮されていることはありますか(例えば各学校に説明に向かい、理解を得る等)。

【まちフェス桜】

- ・ 参加者の情報共有の方法・頻度について教えてください。

(3) 働く世代の生涯学習の振興に係わる事業

- ・ これらの事業を行うことが目的となってしまう傾向はありますか。事業を行うことでの活動の広がりの可能性は、どのような点でしょうか。
- ・ 会員管理システムや申込システムの概要について教えてください。）
- ・ 「夢桜さいたま祭り」の運営支援者が参画する経緯は、どのようなものでしょうか。
- ・ 「夢桜さいたま祭り」の運営支援者にとって、活動はどのような場であることが期待されるでしょうか。
- ・ 地域のPTAへの働きかけ・参加状況（小中学校15校のうち何校、何名）について教えてください。
- ・ 地域の働く世代の人びとが、本事業（夢桜さいたま祭り）をよりよい取組みとして活動を継続するために、どのような仕組みが期待されるでしょうか（例えば研修や学習会等の仕組み等）。
- ・ 福祉作業所のお祭りとの連携することのよいことや課題があれば教えてください。

2 事前調査票について

(1) 「働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくり」について

- ・ 本事業（夢桜さいたま祭り）を通じて、子どものみならず保護者や働く世代の人にとって学習機会につながっている機会と捉えることのできる場面はあるでしょうか。
- ・ 新規の参加者、協力者はどのような方たちですか。
- ・ 2年ほど開催されていますので、既存の組織やチームに新しい人が入りにくいという傾向はありますか。
- ・ 「外へ発信」とありますが、どのように発信していますでしょうか。
- ・ 報告集の作成部数、配布先、反響について教えてください。
- ・ 報告集や、未来会議の開催によって、活動の内容や成果を外へ発信ことで、なにかよいフィードバックはあったでしょうか。
- ・ 報告書はどの程度の人が見ているのですか。

(2) 「働く世代が地域活動につながる仕組みづくり」について

- ・ 未来会議のメンバー（男女比、年代、職種）・開催日・年間開催日数・会議参加人数・増減）を教えてください。
- ・ 地域の仲間意識や、地域社会への理解を促進に向けたゴール（目標）が設定されるとしたら例えばどのようなことか、教えてください。
- ・ 本事業（夢桜さいたま祭り）を運営するリーダ層の特徴があれば、教えてください（例えば、PTA役員経験者等）。
- ・ 「地域の仲間意識」ですが、一般的には固定化されてしまう傾向にある可能性もあります。こうした短所はどのように克服していますでしょうか。
- ・ その後、参加してくださった大人の方のコミュニティはどうですか？つながりはありますか？
- ・ 子供による波及効果（働く世代に限る）を教えてください。

(3) 課題点について

- ・ 2年ほどの開催で、辞めてしまった関係者などはいますでしょうか。その理由は何でしょうか。
- ・ 集まれるようにするためにどのような工夫をしていますか。
- ・ 人材育成で取り組んでいることを教えてください。
- ・ 人材育成の課題とは何ですか？
- ・ 人材育成のゴール（目標）が設定されるとしたらどのようなことですか。
- ・ 補助金はどこからもらっているのですか？何の補助金ですか？
- ・ 「次回からは子どもたちも大人たちと同じように交流できる機会を作っていきたい」に関して、子どもたち同士でどのような交流の機会の創出が期待されますか。

3 その他、事業全般について

- ・ 事業の持続可能性や人間関係の構築など、留意している点がありましたら、教えてください。
- ・ 子どもたちが体験する場だけでなく、企画運営に携わる取組が素敵です。同じ体験でも異なる学びが得られるように思いますが、企画運営に携わった子どもたちの変容や感想があればお聞かせください。